

野球 平成29年度春季近畿地区高等学校野球大会

準決勝

彦根東 3 — 4 大阪桐蔭



速報新聞

キマグレ

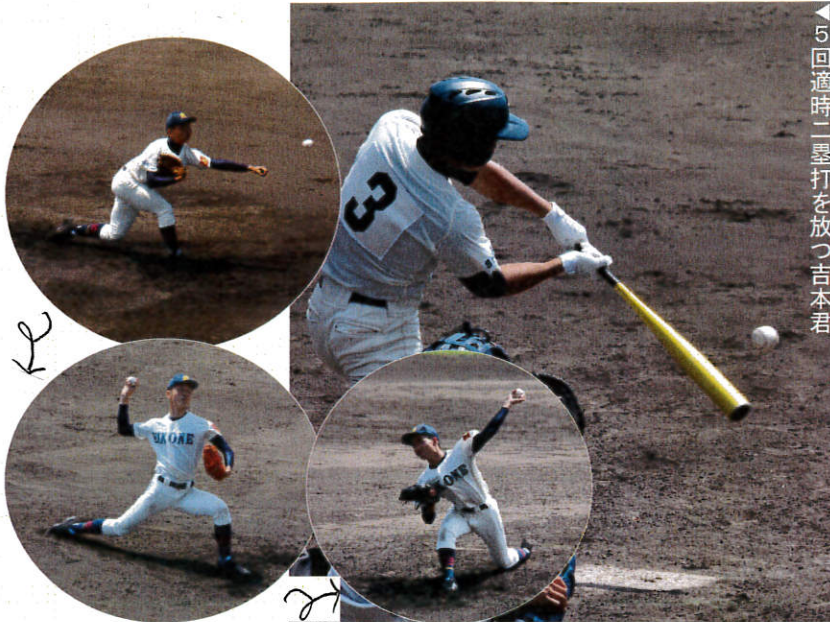
発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

大阪桐蔭に惜敗も

夏への大きな自信に

5回適時二塁打を放つ吉本君



▲先発の原君(上)、中継の松井君(左)、抑えの増居君(右)

5月27日から平成29年度春季近畿地区高等学校野球大会が開催されている。大会4日目の6月3日には本校と大阪桐蔭高校が対戦し4—3で本校野球部が惜敗した。

TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	R
大阪桐蔭	1	0	0	0	0	0	1	0	2	4
彦根東	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3

本校は1回に先制されてしまい、その後4回まで得点できなかった。しかし5回、先頭の5番辻山知志君(3—6)が二塁打で出塁、6番太田剛志君(3—6)の犠打が成功し相手のミスで出塁、7番條野正宗君(3—7)も相手のミスで出塁し無死満塁とした。続く8番吉本孝祐君(3—4)の適時二塁打で2人の走者が生還、逆転した。さらに相手のミスで1点を追加し前半を3—1でリードして折り返した。その後は7回に1点、9回に2点を追加され逆転を許し、最終回は二死から走者を出しても攻めきれず惜敗した。守備においてはセンターの太田君が好プレーを連発した。先発の原功征君(2—8)は5回まで毎回走者を出しながらも1失点で切り抜ける好投を見せ、6回からは主将の松井拓真君(3—5)、8回からは増居翔太君(2—4)の継投で試合を運んだ。

吉本君は逆転の適時二塁打と試合を「外野飛かと思っただけが打球を圧してくれてよかった。どうやって勝つかを考えながら楽しくやっていった」と振り返った。最後に夏の大会に向けて「甲子園に出場できるようにやっていきたい」と意気込んだ。先発で好投を見せた原君は自分の投球と試合を「先発で投げることができ、自分で大阪桐蔭打線に立ち向えたことは価値のある経験になった」と振り返った。夏の大会に向けては「大阪桐蔭と互角に戦えたことは良い結果となったが、詰めの部分を夏までに仕上げていきたい」と話した。主将の松井君は試合を「継投で勝つと決めていたので勝ちきれず残念。最終回まで粘り強く戦え、力負けでないことがわかったが平凡なミスが多かった」と振り返った。また伊吹「大阪桐蔭を抑えられたのはよかった。良い自信になった」と話した。最後に松井君は夏の大会に向けて「絶対に甲子園に出場する。勝ち抜けるチームを目指して頑張りたい」と意気込んだ。監督の村中隆之先生は今回の試合を「大阪桐蔭だから負けたのではない。落ち着いてほしいことをすれば全国1位にも通用するかわかった」と振り返られた。夏の大会に向けては「打倒大阪桐蔭を目指して、人間的に成長する1か月にした。絶対に優勝する」と意気込まれた。